

福島イノベ倶楽部視察会&進出企業との交流会



福島から、未来を耕す挑戦

認定農業者：福 2506002号

野良仕事師集団 株式会社 ちーの
代表取締役 ナカヤチ 美昭



■ 異業種から農業へ-原風景の再生と持続可能な稲作モデルの創造

- 2020年 福島県浪江町北産業団地にお米のプラスチック樹脂製造工場建設に着手。
- 2021年から食味を追求せず生産性・効率性重視の「稲作農業モデル」を確立するべく、福島県双葉郡浪江町の圃場約3haでバイオマスプラスチックの原料となる新市場開拓用米の生産を開始。



農業のヤバい3大課題に気づく

■ 【農業課題①】 離農の加速

約9割が60歳以上

年齢別	個人のコメ農家数	年齢別割合
29歳以下	0.3万人	0.6%
30～39歳以下	1.0万人	1.8%
40～49歳以下	1.7万人	3.1%
50～59歳以下	3.1万人	5.8%
60～69歳以下	16.2万人	29.8%
70歳以上	32.1万人	58.9%

88.7%

大離農時代の到来で農業従事者いなくなる

■ 【農業課題②】 水田由来のメタン排出



ドイツ・バイエル社のCEOビル・アンダーソン氏

ダボス会議2024「気候と健康」のセッション
「**水田稲作は温室効果ガス メタンの発生源**」

地球温暖化を理由に、水田稲作を指摘



農業と環境保全の両立は不可能なのか？

【農業課題③】 国内市場縮小、世界市場拡大

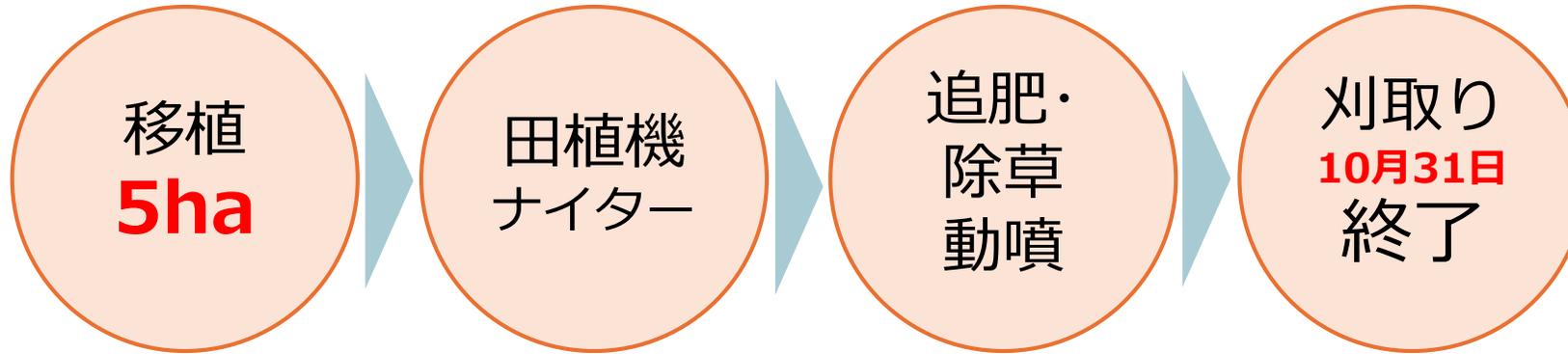


ビジネスチャンスを模索

■ 2022年 農業法人で起業

- 農業をやる予定も目指したことも家業でも一切なかった。
- 休耕田・耕作放棄地を何とかしたいと覚悟 ⇒ 「原風景の復活」
営農再開・後継者不足の根源は、年齢ではなく「**意欲のあるリーダー像の不在**」が問題。
浪江町へ移住し、**2022年に農地所有適格法人での起業!**

2022年 ひとり農業スタート 5ha



2023年 ひとり農業第2シーズン 20ha



※ 浪江町 約7ha
※ 飯舘村 約13ha

「お米」 = 「稼げる農業」 に！

▼湛水直播/鉄まきちゃん



▼湛水直播 ドローン



▼K-SAS & xarvio®



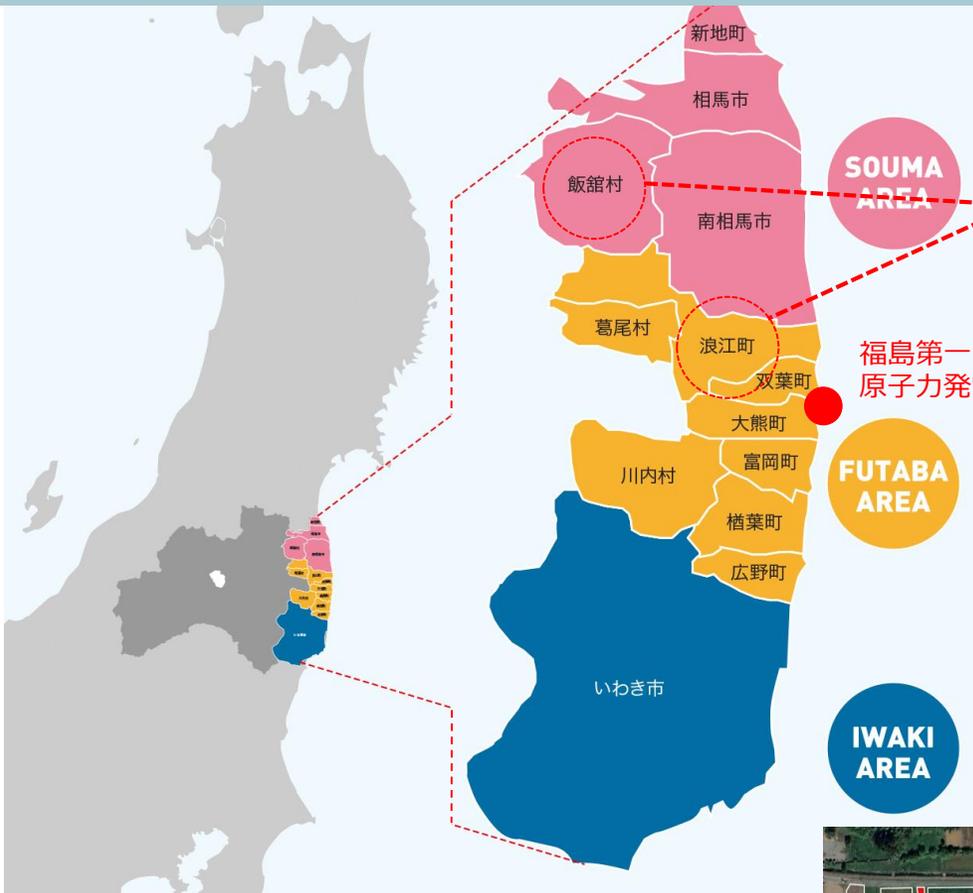
▼節水型乾田直播



▼Jクレジット/NTTドコモビジネス



3年間の積上から得た独自農法



● 2025年の作付け面積 **2名体制**で実施！（現在4名体制）

● 浪江町約21ha
● 飯舘村約23ha } → **約43ha**

● 稼げる農業に必須の**3つの掛け合わせ**

直播（湛水・乾田）

× **バイオスティミュラント資材**

× **DXの活用（衛星データ）**

● 衛星データから**可変施肥の導入**
可変施肥データの共有



2025年度 稼げる農業の実績



- 作付け面積
 - **約43ha** (433反)
- お米の収量
 - **約210トン**
- Jクレジット成果 (中干し期間の延長、43ha相当)
 - **16.0t-CO₂** (≒@120万円)
- 可変施肥の導入
 - **肥料コスト 25%減**
 - **収益 115%増**

可変施肥による肥料コストと収益の変化



※2haの水田比較

移植比較：労力1/3減
製造原価：30%以下

■ 5つの変態的挑戦！ Go to 2035

- 圃場面積**1000ha**（東京ドーム200個）に**拡大し、お米作りを大型農業へ**
- 地元**人材の雇用**、現スタッフは全員地元雇用
浪江町、飯舘村、福島イノベ機構・相双復興支援機構との連携
- お米の裏作で植物を栽培、**ジェット燃料用原料**の供給
- **海外マーケット戦略として輸出用米の増産**
（サプライチェーンの整備・企業連携）
コメは世界で**毎日40億人**の人々の食を支えている
- 農地所有適格法人として**IPO**を目指す

農業を「**超成長産業**」にする

福島から、未来を耕す挑戦



GOOD SEEDS,
GOOD FUTURE

ちーの

